

2021 年度始業式校長挨拶

皆さんおはようございます。

2021 年度が始まりました。本来なら大講堂で、昨日入学した中学校一年生も含め、全校生徒を集めて行いたいところですが、今年度も新型コロナウイルスの影響で残念ながらありません。しかしながら、昨年と比べて一歩前進。昨年の今日はまさに緊急事態宣言が発令された直後でした。皆さんには HP を通じて動画を配信した記憶があります。近い将来、大講堂で始業式が行える日が来ることを楽しみにしています。

さて、2021 年度の始まりに際し、まず、この春休み中などに活躍した生徒の様子を三人紹介します。

一人目ですが、3 月 15 日に行われた、地学オリンピック本選に、高 3 中村颯君が出演し、銀賞を受賞しました。これは、成績全国上位 10 位以内の金賞に次ぐ、11 位～20 位の結果です。日本代表候補まであと一歩の惜しい結果でしたが、立派な成績でした。おめでとうございます。

そして二人目ですが、3 月 20 日にオンラインで行われた日本生態学高校生ポスター発表で、高 3 で生物部部長の岸田知磨君が見事、審査員特別賞を受賞しました。演題は「都市緑化 2 地点のカメムシ相」ということで、武蔵校内と江古田の森の 2 地点の比較から、都市緑地のカメムシの特性を明らかにしたことが評価されました。おめでとうございます。

それから三人目ですが、第 15 回科学地理オリンピック日本選手権で、高 1 山田優斗君が見事金賞を受賞しました。これもオンラインで全国 1114 名が参加。金メダルは上位 15 名になります。中学生時代の受賞ですのであつぱれです。おめでとうございます。

他の武蔵生諸君も、新年度に向け、各部活動や委員会活動にそれぞれ取り組んでいると思います。ぜひ頑張ってください。

さて、これからが 2021 年度始業にあたっての私の話になります。大きく分けて二つ。まず、2021 年度における新型コロナウイルス対応に向けての学校の大方針と、次にさらに大きな武蔵生への期待についてお話をします。

まず、今年度の新型コロナウイルス対応に向けての大方針です。

最初に、新型コロナウイルス感染についての現状認識です。昨年度は新型コロナウイルスの影響を受け、学校も休校期間を余儀なくされた一年でした。今年度も、引き続き新型コロナウイルスの影響は続いています。特に変異株の拡大もあり、全国的に第4波の到来が叫ばれています。変異株は、これまでのものと違い、感染力も強く、重症化リスクも高い、さらに若者への感染力もいわれています。大阪の状況はニュースで報じられているとおりにですが、東京を中止とする首都圏も遅かれ早かれ、同じような状況が来るだろうと厳しい認識を持っています。私は身をもってコロナを体験しましたが、ウイルスは注意していても忍び寄ってきているのが現実です。また、あの辛さを体験すると、絶対にかからない方がよいと本当に思います。

一方で、私たちにも経験知が蓄積されています。すなわち、感染拡大防止対策として、まず飛沫感染対策が何よりも重要なこと。とりわけマスクの着用が重要なこと。次に、手洗いをはじめ頻繁な手指消毒が有効なこと。飛沫感染や接触感染などにより、ウイルスに付着したかもしれない手を不用意に目や鼻や口に触ることがよくないことがその理由です。そして、密を避けること。ソーシャル・ディスタンスという言葉が言われましたが、最近ではフィジカル・ディスタンスというそうです。その通りですね。社会生活を営む上で心と心のつながりは大事だけれど、身体的な接触の距離感とは分けて考えるべきだと思います。

そうした中、新しい武蔵スタイルとして、新入生は初めてですが、むさし。つまり無理をしないの「む」、最初に検温の「さ」、しっかり手洗いの「し」からなる「むさしの新しい生活スタイル」を示し、皆さんの協力のもと感染拡大防止対策を行ってきました。武蔵生の一年間の協力に感謝しています。学校で一番心配なことは、密な飛沫感染により、「不用意なクラスター」を作ってしまうことです。

本日も各教室で「2021年度 1学期の生活心得」という新たにプリントが配布されますが、新入生はもちろん、上級生も気持ち新たに、ごみの持ち帰りや清掃の徹底も含め、確認してもらいたいと思います。つまり経験知を踏まえ、やるべきことをしっかりやってほしいと思います。今の状況ですので、感染してしまうことはしょうがないことだと思いますが、不注意による不用意なクラスターは絶対に出さないように、協力してほしいと思います。

そうした感染拡大防止対策を踏まえ、皆さんの安全・安心を基盤に置きながら、2021年度は、武蔵本来の教育を段階的に取り戻すということが今年度の大方針です。まだまだ感染状況によって、時に行きつ戻りつすると思います。東京も今後、まん延防止等重大措置が適用されるということですし、さらには三度目の緊急事態宣言の発令もあるかもしれま

せん。したがって、行きつ戻りつをするかもしれませんが、そうであっても、感染予防対策に注意しながら、武蔵本来の教育を段階的に取り戻していきたいと思います。

まず、昨年度一切できなかつた学校行事も取り戻していきたいと思います。記念祭については、現在、一般外来者は断念し、オンライン中心になりますが、小委員会を中心に準備を進めています。昨年全くできなかつた悔しさも踏まえ、ぜひ記憶に残る記念祭にしてほしいと思います。

泊を伴う夏の中1山上学校、中2民泊実習も、その実施形態を工夫しながら、何とか実施したいと考えています。また、高1総合講座を中心に、武蔵には夏休みを中心に様々なフィールドワークがありますが、こうしたものも今年度は感染拡大防止対策を講じながら、何とか実施できないかと考えています。

4月からの変化としては、部活動など校友会の活動時間も昨年2学期の時点と同様、平日の最終下校時刻は18時に戻すことにしました。練習試合なども、保護者などの一般の方の来場はまだ認められませんが、相手チームの来場の際は、検温などをしっかりやってもらったうえで、練習試合などもやってもらい、公式戦に備えてほしいと思います。

食堂についても、これまで弁当販売に限っていましたが、食堂の方と相談し、ラーメンやカレーなどの販売を始めることとしました。ただし、弁当販売の場合の食器の戻しは、それを教室内のゴミ箱に入れてしまうと、そこでのゴミが増えて、飛沫感染・接触感染のリスクが高まってしまいます。食堂に戻して教室内のゴミの減量に引き続き協力してほしいと思います。

さらに、授業以外の休み時におけるグラウンドや体育館の利用について、先日代表委員長から、それを解除してもらえないかという申し入れがありました。

これらについては、これまで感染拡大防止の観点から禁止としてきました。体育の授業や部活動など、教師の管理下においては、マスクを着用することや、ディスタンスをとって密を避けること、活動前後の手指消毒をしっかり行うことは徹底できるかもしれないけれど、日常ではまだ難しいのではないか、そのことによって不用意なクラスターを発生させてはまずいという理由からでした。

ただ、生徒諸君自身が、学校生活において、自主的・主体的に考えて、感染予防対策と日常の学校生活を両立させていくことが何よりも意味のあることだと思っています。代表委員会の皆さんには、教師側も納得できるよう、生徒諸君で主体的に感染予防対策に取り

組めるよう検討して欲しいと思います。現在の感染状況は決して改善している傾向にはなく、むしろ悪化している状況ではありますが、近い将来、グラウンドなどの使用規制も段階的に解除できるよう、先生側を納得させる案を考えてみて欲しいと思っています。

大事なことは、色々な縛りがあっても、なぜそれがあるのかをしっかりと考え、それはどうしたら変えられかを提案し、実行することだと私は思っています。

いずれにしても、まだまだ感染状況は厳しくなってくるかもしれませんが、我々には経験知があります。また、コロナ禍のピンチだからこそ、例えば、ICTを活用できるようになりました。そうしたものも生かしながら、「武蔵はやっぱり違うよなあ」「武蔵はさすがだなあ」という声のでるくらいに、感染予防対策を講じながら、武蔵本来の教育を実現する2021年度にしたいと思っています。共に頑張りましょう。

さて、二つ目の話をします。武蔵生への期待です。

そのお話の前段ですが、昨年12月6日に有馬朗人前学園長が90歳で急逝されました。その後、学園長は不在でしたが、この4月1日に新しい学園長に池田康夫先生が就任されましたので、生徒諸君に紹介します。

池田学園長は、武蔵の卒業生です。36期生になりますので、私より14期先輩の皆さん方にとっての大先輩になります。在学中は強豪のバスケット部に所属し、全国大会にも出場し、キャプテンとしてベスト4に進む活躍をされたプレーヤーでした。

卒業後は医師になられ、慶応義塾大学の教授として活躍。血液内科における日本の権威です。さらに医学部長も歴任され、2013年より武蔵学園の副理事長に就任。このたび有馬学園長のあとの第5代学園長に就任されました。私が言うのも僭越ですが、大変温厚で素晴らしい人柄ですので、またいずれ機会があればお話をしてもらいたいと思っています。

池田学園長も有馬先生の遺志を継がれています。私も皆さんに、有馬先生が晩年盛んに言われたことを武蔵生に伝えなければいけないと思っています。それが今日の二つ目のお話です。

その有馬先生が晩年いわれていたことは二つです。私も何度かお聞きしました。

一つ目は日本は資源がない国なので、教育と研究に力を入れなければならないということです。日本は世界の先進国であるOECD(経済協力開発機構)加盟国のうち、教育費にか

ける比率は、最新の2017年度の統計でGDP比率2.9%で、比較できる38か国中37位とほぼ最下位。そうなんですね。最高がノルウェイの6.4%、平均が4.1%ですので、2.9%の日本とはずいぶん開きがあります。これも様々な理由や事情があるのですが、このことを憂っていました。日本は今後も少子化が進み、資源が乏しい国である。だからこそ、研究と教育に国にもお金をかけなければならない。積極的に発信され、働き掛けておられました。これは武蔵生への期待というより、我々大人が受け止めるべき問題だと思っています。

もう一つは、日本が東西文化融合の架け橋になれということです。

昨年の年賀式でも、卒業した高3の先輩が有馬先生のことを偲んで、「有馬先生にはパレスチナ問題を解決するぐらいの志をもて」と言われていたと紹介していましたが、私はそれを聞いて、武蔵生にそんなこともお話されていたのかと、率直に感銘を受けました。

私が有馬先生から直接お聞きしたのは、以下のことです。「これからは中国が力を持つ。アメリカとの間も大変になってくる。さらに忘れてはいけないのはイスラム世界。日本という国は、中国にもアメリカにもイスラム世界にも信頼されている。その架け橋にならないといけない」ということです。

有馬先生は、世界各国につながりを持たれている方でした。東大総長、文部大臣、理化学研究所理事長も歴任された方で、それゆえに先生の発言には説得力がありました。

そして武蔵の教育を受けている武蔵生に大きな期待を寄せていました。世界に雄飛し、東西文化融合の架け橋になれと。

この点について、それを具現化している身近な武蔵の先輩がいます。馬淵俊介さんという卒業生です。70期なので今40歳を過ぎた先輩です。

武蔵では野球部に所属していたとのことですが、大学卒業後、JICA(国際協力機構)や世界的なコンサルであるマッキンゼー、そして世界銀行に勤務し、現在はビルゲイツ財団に在籍され、発展途上国へのワクチン分配の仕事をされています。この多くは日本人が数少ない職場であり、昨年立ち上がった世界的感染症対策を考える「独立パネル」という国際組織では、事務局で唯一のアジア人として尽力されています。西アフリカでの活動を通じ、エボラ出血熱に悩まされた子供たちの理不尽な死を何とかしたいというのが馬淵さんの原動力だと思います。ワクチン大国の欧米と、そうでない発展途上国をつなぐ。しかもヨーロッパやアメリカ人と渡り合う、まさに架け橋となる仕事をされています。

昨年末、私は、武蔵生と馬淵さんが Zoom で話す機会があり、そこに私も仲間に入れてもらい、馬淵さんのお話を聞きました。そこで、この「東西文化融合」のことを念頭において、これまで日本人のいないところで世界と渡り合ってきた馬淵さんに、「日本人だからこそ世界で活躍できる可能性」と「世界と渡り合うために日本人に必要なこと」を質問しました。

すると馬淵さんは、日本人の可能性については、デザインした計画をきちんと実行する力や、相手の気持ちを洞察する力など、日本人が世界に貢献する可能性が十分にあることを踏まえたうえで、アングロサクソンの人々とわたりあうには、三つの力、第一に英語力、第二に論理的思考力、第三にデータ分析力を磨け。その武器なしには戦えない。逆にその武器を身に付ければ日本人は本当に力になると話してくれました。

また、混沌とした現代を切り拓くためには、「共感力をもったリーダーシップ」が必要だという言葉も馬淵さんから教わったことです。

武蔵生には、ぜひ、人類史に貢献するくらいの高い志をもってほしい。政治、経済、文化、学術、スポーツ、どの分野でもよい。楽しみにしています。東西文化融合の架け橋になってほしいと願っています。それが有馬学園長の願いだったと思います。

最後に一点連絡をします。昨年度実施できませんでした。校長との面談を再開します。昼休みを使って行います。感染予防対策は取りたいと思っています。

一昨年度、生徒面談を行ないましたが、一年間を通して、高校生の3学年までしかできなかった。その続きを考えると現在の高2以下ということになりますが、仕切り直しということで、改めて高3生から始めて、下の学年に行きたいと思います。

今年度は高校生くらいで終わってしまうかもしれませんが、武蔵生が今どんなことを考えているのか、将来をどう考えているのか教えてください。詳しくは追って連絡しますので、よろしくお願ひします。

それでは、話が長くなりましたが、素晴らしい2021年度になることを期待して、私の話を終わります。ご清聴ありがとうございました。